

MICKY & MAYA の Merselo-Verona 1200km ブルベ体験記



(ヨーロッパ縦走)

2カ国 3カ国にまたがるブルベはそれなりにあるが、これは、オランダードイツーオーストリアースイスーイタリア と 5カ国を回る過去に無いスケールの大きなイベントだった。



Merselo-Verona 1200km

15-18/ 2014 par E.R.N

制限時間**90時間**
(3日18時間)

稲垣は
85時間15分でした。

井手は
114時間(4日18時間)
でした。

参加者は45名。その内 日本人は4名
という、割合としては多いRM参加率

私の名前はみつあきで、海外では発音
が難しいので、MICKYと呼んでもらっている。
マヤさんは元々がMAYAなので、マヤは
MAYA



Merselo2Verona

Micky inagakiの行程

•9月15日6:00 スタート

PC2 16:40, PC3 23:00, PC4 9:32, PC5 15:29 PC6 01:20

PC7 9:30 PC8 18:10 PC9 2:00 PC10 11:30 PC11 15:35 PC12 19:15(ゴール)

•9月18日17:00 83時間でトップがゴール

この1200kmは 主催者のBENから、最初で最後のRMになると聞いていた。

つまり、今後開催するつもりがないということの意味するために、どうしても参加したかった。

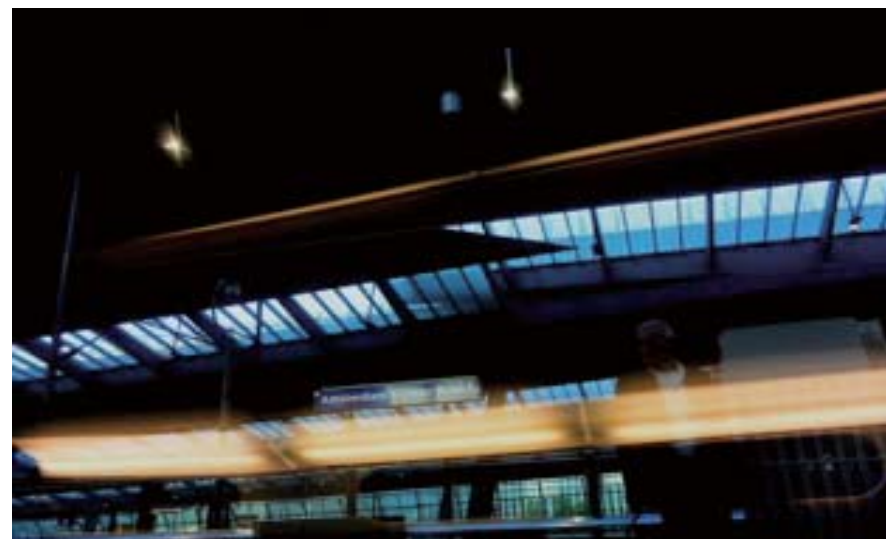
日本人は4名が結果的に参加出来たが、稲垣は、ウェイティングリストに5ヶ月も残り、参加できることがわかったのは、スタート3週間前だった。嬉しい反面、フライトのチケット、ホテル関係、主催者や、友人との連絡で 準備は慌ただしかった。

マヤさんは2014年元旦に申し込み参加者リストに一番目となり、2日間で完売。

出走前の稲垣のPrologue

9月12日 オランダ入り 主催者のBENが空港に
迎えに来てくれたが、今泉さんと私が同じ便と思
い込んでいて、空港では会わず。

私は最初の目的地 オランダ最古の街ナイメー
ヘンに電車で向かう。



ナイメーヘンの現在は近代的なも
のと、中世の物の融合的な街に
なっている





行って見たかった教会を3つ訪ねたり、
歴史書をチェックしながら、街歩きを
する。神父さんの案内でライトも付け
ていただき、横たわる十字架を見学。



町並みには、いたるところに自転車。
翌日は 修道院を改造したホテルに泊まるため
ボクスメルに移動





簡素な中に、心落ち着く空間の中で出走の興奮を抑えながら、自転車の整備をする。いくつかのトラブルがあったが、自転車好きのフロントマンにいろいろ助けてもらって、自転車は整備ができた。



出走前は 主催者の
推奨の民宿のような所
に多くのライダーが分
宿した。

車検も人数が45名の
出走なのでわきあいあ
い。夜は会食



MV1200 1day 15/9 2014

朝、オランダらしい風車のあるスタート地点に行く。中では朝食と、お弁当のサービスを受け、コーヒーを飲みながら、リラックスモード。このRMには、かなりのベテランライダーが多く、顔見知りの人たち同士で盛り上がりが最初からあった。



LELで一緒だったドイツ人のピーター



SM,1200m, ロッキー、北海道で一緒だったアレックス



スタート地点は田舎とは言え、住宅街のどまんなか。朝早いのに、近くの住民も沿道に来てくれて、見送ってくれた。

このブルベは、12回目の海外ブルベにして、一番印象に残るものだった。

とにかく風景が素晴らしい。しかし、自転車道は思った以上に、わかりづらく、走りづらかった。

AUDAX方式の走行でなければ、迷子になっていたろう





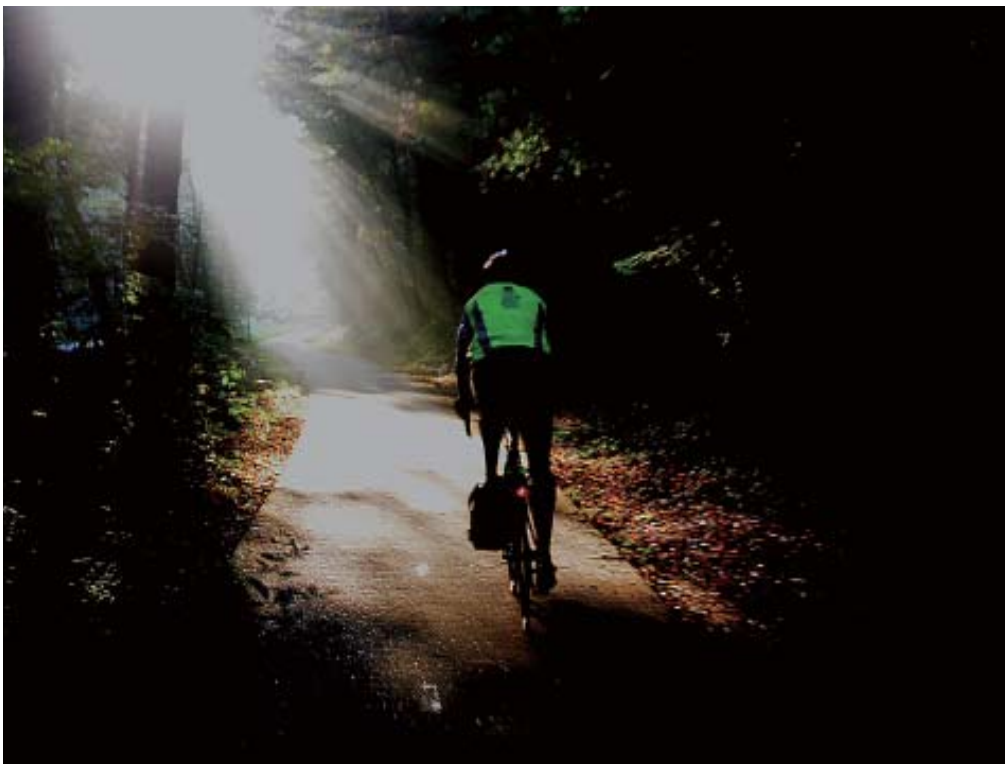
この地方は、この時期朝は霧の発生が多く、フォトジェニックな風景が走りだして1時間程は続く。止まりながらしか写真の取れない私は、集団から離されて行くが、風景を楽しむという事が一番なので、気にしない



夜明けと共に 今泉さんと走る気持ちのいいサイクリング道路はほとんど川沿い



この風景には感動した。数名のライダー達も立ち止まって写真を撮っていた



表現が難しいが、流れるような風景と光の中を進んで行くという感じだった。まるでレンブラント



BENとマヤさん

約70km地点で、庭先を借りての
シークレットポイント



エナジバーや、クッキー 紅茶など
が振る舞われた。ここまでの走行
時間はかなり早かったと思う。

オランダ国内だから山はなく、どこ
までもフラット。これで調子に乗ると、
膝を痛めるので、自分なりに言い
聞かせての走行。

オランダ国内は積極的にオランダ
人が道案内して引いてくれた。途
中カスケードで一緒だったヤンにつ
いていく



レストランの食事風景に見えるけど、実は160km地点のPC1。
とにかくお腹が空いていたが、物
凄い量で満足。

ここも人の家で、ボランティアで
の食事提供。 瓶の中に適当に
お金を入れていく。アキコさんも
満足そう。

時間を全く気にしないブルベは
別の意味で有意なことも多い。





お城の城壁の中を通過して行くコース



ドイツに入るとドイツ人の主催者ピーター（左）がリーダーになってくれて道案内



とにかく公園内など、現地ライダーと一緒にないと、わからない道が多い





180km地点から、8人ほどのグループになった



ビンセントのバックが壊れてヘルプ
こういう時でもグループライド
は、皆一緒に動く



PC2は、ライン川とモーゼル川が合流する
所。ドイツ最古にして最も美しいと言われる
街。(コブレンツ市)
このコースは以前に来たことがある場所が
多いのでとても懐かしく感じる



237km地点のPCは garten EDEN という レストラン。グループで食事をしグループでライン川沿いを走る。これが オダックス方式。 昨年LELで、スコットランド主催者のサイモンから教わった走行方式

人によっては、この方式が良かったり、アダになったりする。日本人にはあんまり縁の少ない方式だ。





途中の所々で、ボランティア
スタッフの補給がある。

飲み物、クッキーなど、ありがた
い。
グループは、皆が揃うまで待っ
てくれる。私は遅いので、いつ
も待っていてもらった。

1日目は 350km地点のグンターズハイムに主催者が用意してくれたホテルがあった。仮眠所のつもりでいたが、皆びっくり。リゾートホテルだったからだ。

2人一組でのツインベットルームで、中はかなり広かった。ヨーロッパでは珍しく、歯ブラシまで用意されていた。

22時40分に着いていたので、十分な休息を取り、朝食も時間が決まっているので、ライダー達と挨拶をし、一緒に食べる。ブルベとは、言いがたい余裕の至福のライド。睡眠時間も5時間。

いろいろ 聞いていると、今回のRMは、かなりの数のスポンサーが付いて、お金も集まったらしい。そのため、45名の少ない参加者でありながら、それなりのケアができるという。昔から、オランダ人の企画力と言うのは凄い。

イギリスを建国したオレンジ公ウイリアムはオランダ人だったし、植民地政策で東南アジアを植民地化し、貿易など、日本の鎖国に対して唯一、対外貿易をしていた国だ。本業で無いブルベをここまで出来る国民なのか、、とマヤさんと話をした。

昨日の後半は SIRの連中とドイツ人、フランス人との7名のグループ構成に自然になったが、このまま最後の日まで オダックス方式の走行になるのかわからなかった。写真も撮りたいし、私のペースは他の人より遅いので、食事を済ませて「迷惑をかけるからフランス人のセルジュと先に行くわ、、 追いついてピックアップしてください」と一言かけてスタートする。

オダックス方式はこういう簡単な挨拶をしておく、こいつはグループの事も気かけながら、自分のペースで走るやつだな～～というイメージも相手に与えておくことになる。グループで走っていてついていけなくなり別のグループに引いてもらっても、その先のGSなどでのトイレ休憩の先のグループが、私を見たら「micky！！」と声をかけてくれる。今まで引いてくれたグループにお礼の言葉を言って、もとの自分のグループに戻ったりする。

このあたりが、オダックス方式のルールみたいな所があるので、難しい。たまたま 私の入れてもらったグループは 顔見知りか4人いた事もあるが、オランダ領はオランダ人 ドイツ国内は2人のドイツ人が交代でリーダーをしてくれたので、私は、ついて行くだけになってしまったが、、、いろんな会話が楽しかった。

MV1200 2day 16/9 2014



2日目も 幻想的な霧から夜明けは始まった。



フィルターも使っていないのに、この色って何??



マーケットマスと教会の話をしながら bruchalの街に入る 450km地点



PC4は街の中のパン屋さんだった。この水は高いからと言ってドイツ人のリーダーのクリスチャンが、近くのスーパーで、水2L 3本を買ってきてくれて、皆に分けてくれた。



途中のシークレツ的補給所で、水、捕食のサービス。ビンセントも豪快に水を浴びる



殆どの車道の横に自転車道があるが、車道と比べるとアスファルトの平面性は悪く、走りにくいので、相対速度は思ったより速くない。危険度は減るが、イライラする時も結構あった。



チューブリングンの街の中のパン屋さんがPC5だった。パン屋と言うより、レストランに近かった。シチューが美味しかった。本当にBRMなのか、、、

まるでサイクリングだ。時間は3時間以上貯金がある





スタッフのお陰で、捕食はほとんど
困らなかった。

ヨーロッパらしい風景を走るが、木
陰が肌にやさしかった。
信号待ちでのワンショット。
左から マークトーマス(米)、ビンセ
ント(米)、セルジュ(仏)、ピーター
(独) 写真には写っていないが、ク
リスチャン(独) このメンバーで走
れた事が驚きでもあり、嬉しかった。

彼らは速いライダーなので、2日目
は写真が少ない



PC6のリンダウまでの150kmはマークを先頭にスピードアップして走る。私のGPSデータがかなり正確というので、ダイレクションの指示を頼まれる。そうすると、、、写真は撮れなくなった。





正確な場所は覚えていないが、ドイツ人のリーダー格のクリスチャンが、この先はレストランが無いから食事をしておこうということで、小さなレストランに入った。私はそんなにお腹が空いていなかったが、食べておかないと、走れないので、無理に食べた。

ここの食事代は、すべてマークが支払った。なんか彼自身もこのグループでの走行が楽しかったようで、私のナビも、皆が迷わずに走れたのでごちそうしたいと言われた。

地元のドイツ人も食事に来ていてクリスチャンが、このイベントの説明をしていた。日本もそうだけど、1200kmを走るということは、世界的に変態ということらしい。(笑)

このまま日が暮れて霧が発生する前に我々のグループはリンダウの仮眠所に到着した。

時間的には0:30分頃だった。この時点で貯金は7時間。この日もよく寝た。



MV1200 3day 17/9 2014



3日目は スキーで研修にも来たサンアントンを通るアルプス超え。

そんなに急じゃないというイメージが強く、良い風景を写真に撮りたい思いがあるので、途中で、数回グループを離脱。

しかし、、適当なところで待っててくれるんだな。 有難いことです





このグループは、イギリス人、イタリア人を含む6人。

結構 遅めのスタートでも、いつも速く宿に着いていた。とても安定した走行だった印象がある



この日はピーターがリーダー的だった。

先に行ってもらったが、PC7の772km地点のshellで、待っててくれた。

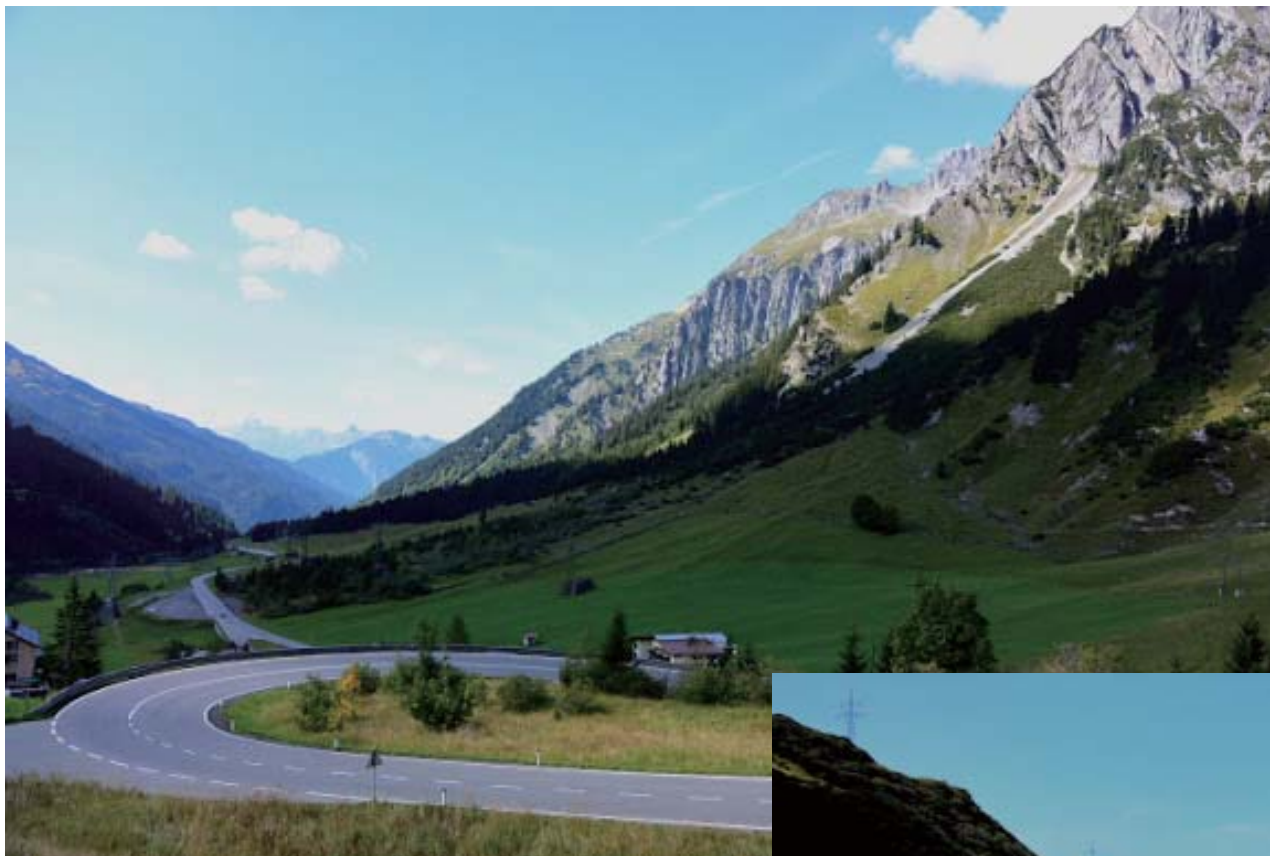
しかし、、これからの風景は とてもいいので、写真を撮る事を彼に説明して、ある程度、マイペースで走ることにした。





お茶するピーター





Alberg Pass 1793m
勾配がきつい峠

Mayaさんはここでくたびれ果てたという。彼女曰く「頂上の手前から冷たい雨が降り出し、坂の勾配もきつく、とうとう歩いてしまった……」

私達は運良く、とてもいい天気
の時に通過した。





頂上からは、気持ちのいいダウンヒル
ヤッホ～～～と声を出してしまった。



次のグループが合流、マークも登ってきた





ドイツからオーストリア そしてスイスをちょっと経由して、オーストリアに一旦戻って イタリアに入る 山岳ロード。登りが苦手な私でも、楽しく登れる比較的楽なルートだと思う。

ドレミの歌を鼻歌で唄いながら、映画のシーンをいくつも思い出した。







写真を撮りながらだったので、
違うグループに捨ててもらって、
遅い昼ごはん。まだドイツ国内
だったので、ヴァイスヴルスト。
ポテトは付いてくる。



途中でスタッフカーからコーラをもらう。よく
冷えていた







サウンド オブ ミュージック の映画の世界。チロルは第一次世界大戦頃から色々問題のある場所。必ずイタリア語とドイツ語の標識がある



スイス国境だが、
通過はノーチェック

PC8マルティナの
前のカラフルな郵便局

ここからの登りは
又違ったアルプスの
風景





途中から、セルジュと今泉さんと合流して、アイスマンの博物館のあるボツツアーノまで、一気に走る。先頭は今泉さん。下りを飛ばす、飛ばす。久しぶりに70km/hの夜の下り。走っても走っても標高は減らず。スリル満点の高速アスファルト道路から突然のオフロード。よくコケなかったし、衝突もしなかった。ま〜いろいろな道がコースになってる。

林檎畑のリンゴを一ついただいたり、駅でマイクロスリーブをしたりして、3日目の仮眠場所のユースに2時頃到着。貯金は7時間30分ほどある。セルジュと私は同室で、今泉さんだけが違う部屋だった。ここまで来ると、完走は見えた。時間あったらセストの町にも行って見たかったが、今回のコースはस्पマンテの醸造所の近くを通るので、それを楽しみとする。

MV1200 4day 18/9 2014



ラストデイの朝は皆のんびりとした朝食から始まる。走ってる時はいくつかのグループでのオダックス方式だったが、この日はちょっと雰囲気違った。

「君とあんまり話をしていないから一緒に走ろう」と言われたりする。皆、多くの人と親しくなりたいという気持ちを感じる。

約20人ぐらいの大きなグループライドが始まった。もはやブルベという領域を超えている







川沿いの道をどんどん南下していく。下り基調ということもあるだろうけど、皆余裕をもって、自国のブルベの話や質問などの会話が中心。

今回の参加者の多くはブルベを主催している人が多かったし、それなりの経験談も聞くことができた。

SIRの2人とは、今まで以上に友好的な関係になり、今後の情報交換を約束してくれた。







ビールは、英語が不得意というセルジュのおごり。彼には不思議とかなり気に入られた。お昼ごはんの pasta はビンセントのおごり。自分は一番年寄りなのに、一昨日の夜はマーク、この日は彼らにごちそうになってしまった。

そうするうちに BEN と一緒に走ってる今泉さんも合流。海外ブルベのパイオニアらしく余裕の笑顔だが、いろいろ心労があつたらしく、彼の気遣いの細やかさに感心しつつ、その大変さを実感した。



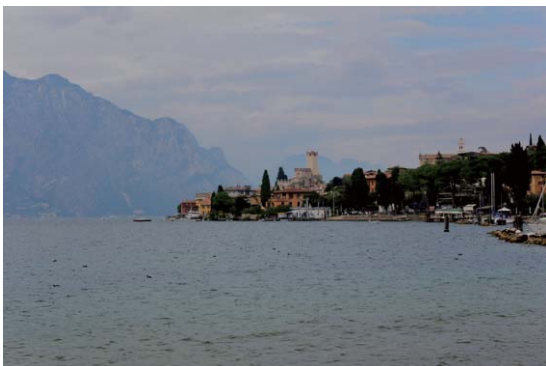
お昼を食べた後は、今泉さんとセルジュとイギリス人のクレージーと走りだす。峠からの風景が北を向いても南を向いても絶景だった。





わざと斜めに立って、
ひょうきんな今泉さん。

ロッビオ湖は高級リ
ゾート地といった所で、
以前来た時にマリア・
カラスの別荘があると
説明を受けたことがある。





最後のPC11。ゴールを目指せ！！って言っていたような雰囲気だ



ラスト・デイは M2Vのプレゼントされたジャージーを着ていたライダーが多かった



ジャージーのデザインはBENがしたという。

オレンジはオランダを表す色ということで、いろいろ細かな説明を受けたが、まるっきり覚えていない





最後の大きな事無い峠を越えて下るとベローナの町が見えた。



ゴール後の
表彰とパー
ティ





oui non *Falouts*

imatsu La randonnée a été accomplie en
gano Japan 85 heures 15 minutes

HOMOLOGATION

Le responsable de la Commission
des Randonneurs *[Signature]*
Le président de l'Audax Club Parisien

AUDAX CLUB PARISIEN
COMMISSION
des
RANDONNEURS
★

Brevet N° 7446

de adressée au
donneurs

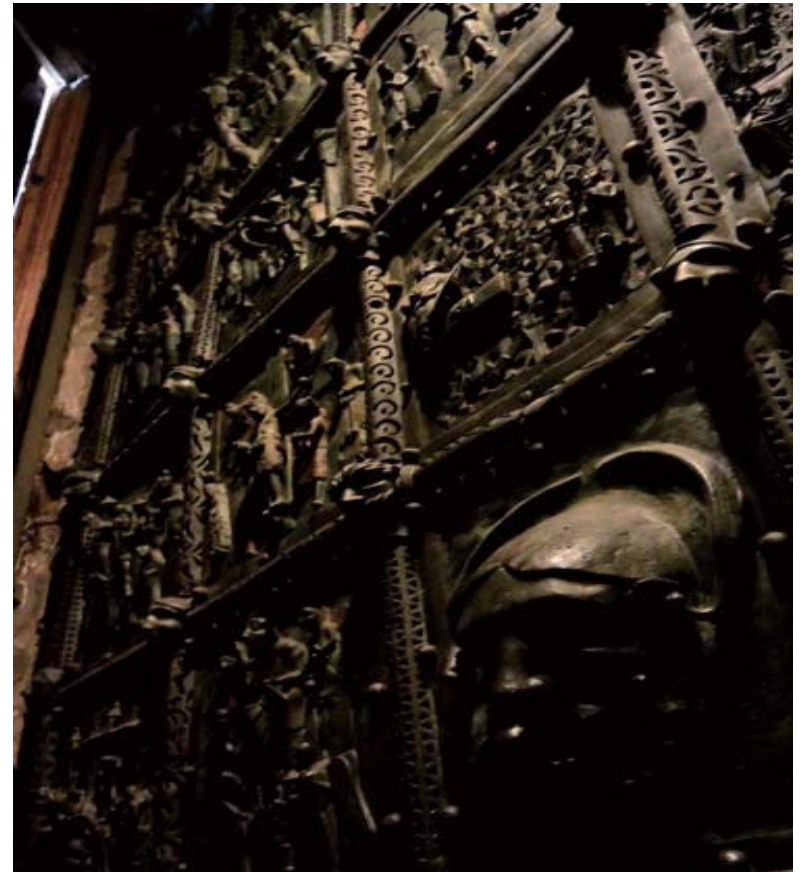
参加賞は、ライダーの名前と出走番号をサンドフロストして、刻印されている。

メダル自体は楕円形のものだが、木枠に焼き印を押して、円形にしてメダルケースに入っていた。かなり凝った仕様

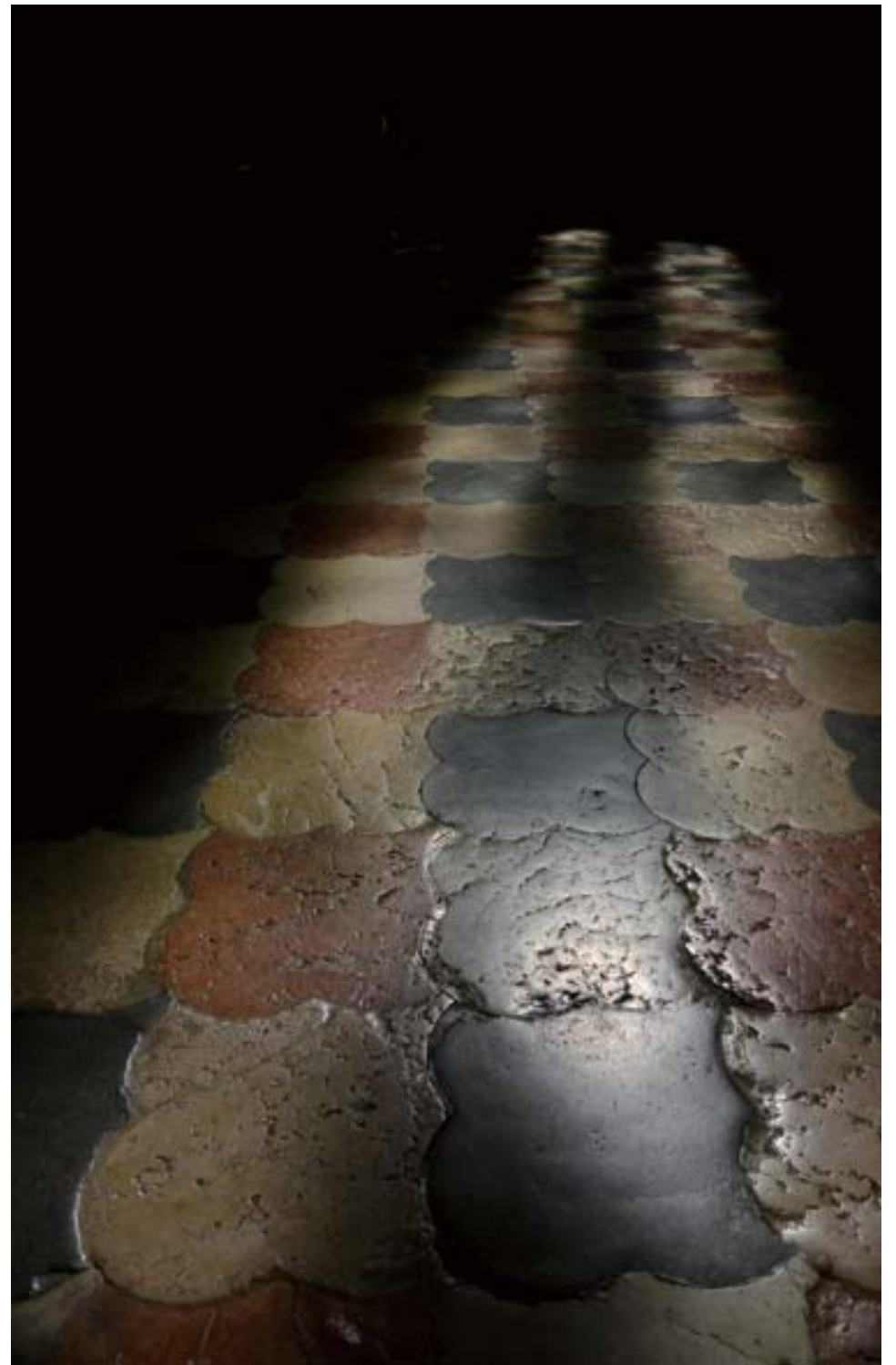
Epilogue malse-ro-verona

私はこのブルベ終了後、20数年ぶりに友人夫婦と一緒に恋人の町ベローナを探索した。











イタリアなので、まずは
ピザからパスタ。ジェ
ラートを食べた後は、蚤
の市で掘り出し物探索





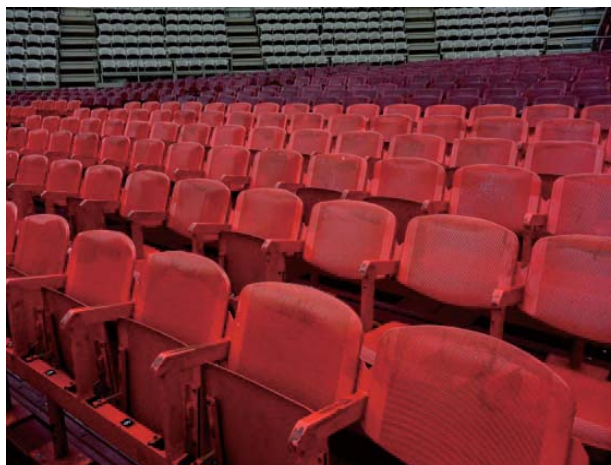
ベローナで一番有名なところ、
ジュリエットの銅像。
バルコニーは、ロミオがジュリ
エットに会いに行ったところと
いうことになっている。

壁面には訳のわからないぐら
い恋人達の名前や、名刺が
いっぱい。やることは日本もイ
タリアも同じ。

こういう事でも恋人たちの町と
いう言われる所以だろう。







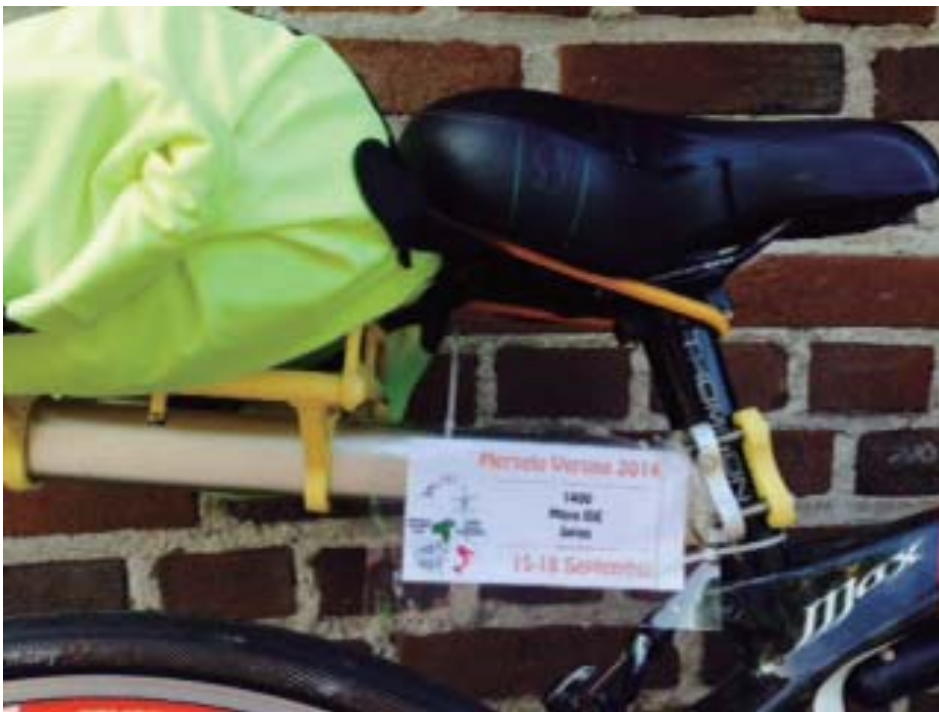
友人はベローナアリーナで行われるオペラフェスティバルの仕事のプロジェクトに参加しているので、音響関係を中心に見学。

この日の夜、偶然、マヤさんもこのアリーナに足を運んでいたというので、びっくりした。

翌日からシルミオーネ、クレモナ、パルマの小旅行をして、パリに寄って今回のRMは終了

Merselo2Verona 井手の行程


- 9月15日: 350km (ドイツ)(18時間)宿で4時間睡眠
- 9月17日早朝: 350km(700km地点)
- 仮眠30分→ アルプス越えの厳しい区間
- 9月17日: 150km (850km地点)
23:00リタイア ホテルで熟睡
- 9月18日: 100km (950km地点宿泊)
- 9月19日: 260km (1200km Verona到着)



ベルギーで暮らしている三女夫婦と孫にスタート地点まで車で送ってもらった。私は主催者の親戚が経営している観光農園の一角にある茅葺屋根が美しい農家で2泊した。

オランダの主催者4人のうちの2人 JanとIvo



A photograph of three people outdoors. On the left is a man with long grey hair and a goatee, wearing a blue polo shirt. In the center is an older woman with glasses, wearing a black cycling jacket with orange accents and a lion logo, and a black cycling cap with a yellow stripe. On the right is a man with a beard, wearing a blue t-shirt with 'SEATTLE' and 'DANDONNE' visible, and a blue cycling cap with a yellow stripe. They are standing in front of a brick wall covered in green ivy and trees with autumn foliage. A bicycle is partially visible behind the woman.

RUSAの代表
マーク・トーマス。四大陸で
ブルベを走破したブルベ界の
王者。

北海道1200kmにも参加し
た外科医のビンセント・モニク
北海道1200kmの直前に
2000kmブルベを完走した
強者だ！



Heures / Open / Close	CONTROLE / CONTROL Signature et cachet de contrôle Signature and mark of control	LIEU DE CONTROLE / PLACE Lieu / Place	CONTROLE / CONTROL Signature et cachet de contrôle Signature and mark of control	LIEU DE CONTROLE / PLACE Lieu / Place	CONTROLE / CONTROL Signature et cachet de contrôle Signature and mark of control
1 Km : 162 Lieu / Place : Niederdrees Adresse / Address : cl. 15/9 16.48 h. a. h.	<i>MNO</i> BNC Network Consulting GmbH Lercherweg 7 53359 Rheinbach Heure de passage Arrival time: 13.00.11	5 Km : 554 Lieu / Place : Tübingen Adresse / Address : cl. 16/9 18.56 h. a. h.	<i>16.16.11</i>	9 Km : 1009 Lieu / Place : Jugendherberge Bozen Adresse / Address : cl. 16/9 19.45 h. a. h.	Jugendherberge Bozen Bozener Platz 23 39100 Bozen Tel. 0471 300 865 Bozener Platz 23 39100 Bozen Tel. 0471 300 858 www.jugendherberge.it
2 Km : 237 Lieu / Place : Koblenz Adresse / Address : cl. 15/9 21.48 h. a. h.	<i>GARTEN EDEN</i> RHEINZOLLSTR. 1 56068 KOBLENZ Heure de passage Arrival time: 17.11.13	6 Km : 708 Lieu / Place : Lindau Adresse / Address : cl. 17/9 07.27 h. a. h.	<i>XJAWAO</i> <i>JAILU</i>	10 Km : 1092 Lieu / Place : Biccilli Adresse / Address : cl. 18/9 15.54 h. a. h.	BICCILLI NONI
3 Km : 350 Lieu / Place : Guntersblum Adresse / Address : cl. 16/9 05.20 h. a. h.	<i>WEDDHOFF</i> Guntersblum Heure de passage Arrival time: 09.10	7 Km : 772 Lieu / Place : Shell Station Bauer Nüziders Adresse / Address : cl. 17/9 13.08 h. a. h.	<i>07.14.0</i>	11 Km : 1100 Lieu / Place : BAR - GELATERIA I VOLT CALCINARDI MARIELLA Adresse / Address : cl. 18/9 14.53 h. a. h.	BAR - GELATERIA I VOLT CALCINARDI MARIELLA Tel. 045.6298552 17010 TORRI DEL BENACO - (VR) Tel. 045.6298552 CLC MLL 59A48 L287F Tel. 0214053 023 5
4 Km : 452 Lieu / Place : Bruchsal Adresse / Address : cl. 16/9 12.08 h. a. h.	<i>Mickerei Stromann</i> Pratz-Wilhelm-Str. 18 Tel. 0 7251 / 30 01 88 76846 Bruchsal Heure de passage Arrival time: 12.08	8 Km : 685 Lieu / Place : Conzinzio Martina Adia csa Pains SA Martina Adresse / Address : cl. 17/9 22.56 h. a. h.	<i>17.02</i>	12 Km : 1200 Lieu / Place : MPP s.r.l. Adresse / Address : cl. 18/9 14.15 h. a. h.	MPP s.r.l. via Garzanti, 3/B - 37138 Verona Tel. 045.6298552 Tel. 045.6298552

ベンとトム。初日はお二人の引きのおかげでオランダ、ドイツ国内の自転車道路を迷わずに走れた。最初の160kmは殆ど休憩なし。ついて行くのが必至で、自己ベストのタイムで一日目が終わった。



オランダとドイツ国内では自転車専用道路を走らなくてはならず、一人でコースをたどる事は不可能だった。特にドイツ国内では一般道路に入るものなら、苛立つドライバーにクラクションを鳴らされる。基本的に自転車は一般道路から締め出されている。

初日はオランダ人参加者の集団に付いて行き、無事一泊目のホテル(350km地点)に 24:00(18時間)で到着。
二日目は小畑さんと二人きりになる区間が多かったが、夜は真っ暗な自転車専用道路を後続の男性3~4人と一緒に走った。
サイクリング道は走りにくい！ブルベには向かないよ！
途中、補給食を提供してくれたスタッフ



西洋式御粥。途中、スタッフが
ジュース類と一緒にふるまってくれた。



小畑さんとベン
のおかげで
分かりにくい
ドイツ国内の
サイクリング道路を
迷わずに走れた。
感謝！感謝！

三輪車に乗った子供、歩行者
で賑わうライン河沿いの自転車道。





Koblenz 237km

ライン河の対岸の城塞との間を往復するゴンドラ。



ライン河沿いの城塞都市コブレンツの
チェックポイントにて



Alber Pass

Nauder

Reschen Pass

でアルプス越え





チロルの山々がようやく見えて、いよいよアルプス越えにさしかかる。

スイスとドイツの国境をなす Lake Constance(Bodensee) はとても大きい湖で、進行方向にはスイスの山々が聳えたつ。





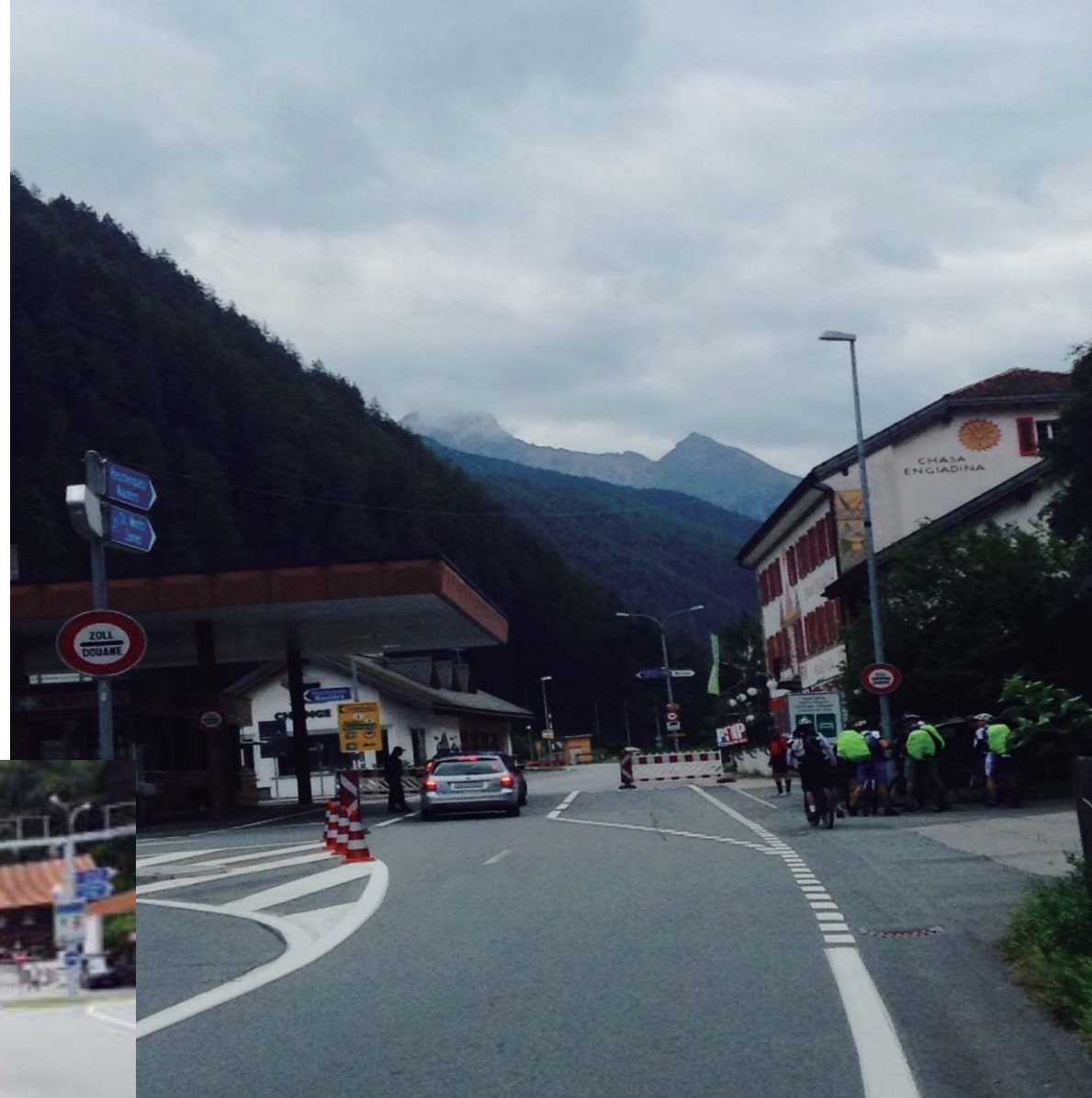
夜中の12:00頃、スイスとオーストリアとの国境付近の町Landeckでリタイヤ。その後が大変。ホテルはどこも閉まっていて町は静まり返っている。ウロウロしているとこれからレシェン峠を越えるという一人の参加者に会うが、ついて行く元気もない。町を目めき通りで途方に暮れていると、閉まっていると勝手に思っていたカフェのドアから少々酔っぱらっている高齢の男性が出てきたので事情を話すと、「俺の車の後ろについてこい」と言う。連れて行かれた先は大勢のタクシーの運転手が待機しているディスコティック。ガンガン音楽が鳴り響く中、5-6人のタクシーの運転手が心当たりのあるホテルに一斉に電話を掛け始めた。しばらくして空いているホテルが一軒見つかりとまた酔っ払い運転のおじさんの車の後ろを自転車について行き、ようやく夜中の3:30にホテルに到着。たたき起こされたご主人は、二階の窓からホテルの入口の鍵をポンと投げ出し、部屋の番号を伝えると、さっさと引っ込んでしまった。朝目が覚めると山々とイン川の景観が美しいチロルの谷が窓いっぱい広がっていた。これからベロナまでのツーリング旅行を楽しめるのだ！と昂揚とした気持ちになっている自分が可笑しかった。

(右)スイスとオーストリアの国境。

全行程の内、唯一国境検問所を通過した地点。自転車はそのままノーチェックで通過させてもらった。

奥の売店がチェックポイント。

(下)橋を渡るとすぐまたオーストリア領内に入る。このコースはスイスをちょっとかすめただけ。



奥がスイス。手前
がオーストリア。



スイスもオーストリアも郵便局がバスを運行している。
自転車を運ぶためのトレーラをバスに引かせていた。







タイムアウトした850km地点からは
楽しいツーリングの旅に切り替えた。

イタリアに入国してからのサイクリング
道路は素晴らしい。一般道とはほぼ平行して
いる上、サイクリスト専用のカフェやホテルが
沿道にあって、賑やかである。

ドイツのサイクリング・ツアー・グループと居
合わせた時、オランダからわずか3日で走って
来たことを話すと、皆驚きを隠さず、その反応
を見て私は愉快であった。

さすがの自転車王国



レシエン湖。ダム湖の底に沈んでしまった村。教会の塔だけが残った。





Adige河は長さ
410km。
イタリア最長
の川。



Glorenza (Glurns)

城壁に囲まれた中世の都市の姿
を留めている。レシエン峠の麓にあ
り風情のある町。

今度ゆっくりと観光したいものだ。





Lake Garda:イタリア最大の湖
第二次世界大戦中はムッソ
リーニ政権の首都がここに
あった。

1943年イタリアが連合国
に敗れるまでは、北部と南部
で内戦状態になっており、北
イタリアはドイツ軍の占領下
に置かれていた。





自転車専用道路について 一言

スクーターの多い台湾では、二輪車専用レーンが整っている。そのため自転車も楽に走れる。ドイツでは最近自転車専用道路が一般道から大きく迂回している場合は、自転車の一般道での通行を認めるべきであるという司法の判断が下された。

そのため、これまで禁止してきた自転車の一般道での通行を一部認める道交法の改正があった。

詳細は以下のリンクを参照。<http://www.spiegel.de/international/germany/commuter-chaos-lack-of-infrastructure-threatens-german-cyclists-a-767522.html>



一般道路を走らせてくれる台湾では、自転車の市民権が認められている。一般道を自由に走れる日本もブルベに向いていると思った。

隔離された自転車専用道路は、幅員が十分に確保されていないことから、自転車の交通量が過密になる。

また一般道路と交差する地点では、合流の仕組みが複雑になるため、一般道を横断する際、自動車との接触事故の危険が高まると言われている。

さらに、一般的に自転車専用道路は人目につきにくい構造になっていて、街灯もないことが多いことから、特に米国では犯罪の温床になっている。

そのため、自転車専用道路の設置に反対するサイクリストが増えている。

ドイツの自転車専用道路



Picture by Manfred Tinebor

が街灯がないので夜は怖い！
隔離政策はだめよ、だめよ。





イタリアは一般道も走れる。

一般道を走らせてくれる
イタリアが大好き。

As a result of a lawsuit filed by an ADFC member from the Bavarian city of Regensburg, German cities are now required to provide more dedicated space for cyclists on their streets. The man went to court on behalf of the club to overturn the "bicycle path usage requirement," which applies wherever blue bicycle signs are posted. By the end of 2010, the man had managed to have his case heard by the Federal Administrative Court in Leipzig -- and won.

Now the usage requirement can only be imposed when there is a hazardous situation "caused by special local conditions" that significantly exceeds average levels of risk. For this reason, many of the blue signs should already have been removed, and yet this has rarely been the case

<http://www.spiegel.de/international/germany/commuter-chaos-lack-of-infrastructure-threatens-german-cyclists-a-767522.html>

ベロナに到着。ただし24時間遅れ。



ベロナの円形劇場。この音響は素晴らしい。





(左)ベロナで先行組と合流。右手前の男女はイタリアの主催者。
パドバでヨーロッパ最大規模の自転車見本市が開催中と聞き、翌日開催地のパドバに駆けつけた。

(左下)またその晩はローマ時代から残る、円形劇場でコンサートを楽しみ、ベロナ滞在を満喫できた。

(右下)自転車見本市へ向かう途中お友達になった素敵な二人。マンマ・ミーア！！！！)





右上:私の大好きな自転車メーカー
ALANの現オーナーで創業者の息子。

右下:2015年MITO。欲しいなこの自転車。





ゴールのベロナでは主催者は全参加者のために名前が刻まれた素敵な記念品と、スポンサー企業が提供してくれた帽子、ボトル、オランダチーズ、エネルギードリンクなど、持ちきれない程のお土産が入った福袋を用意してくれていた。

3泊とも素敵な朝食付のホテルで仮眠ができるなど、至れり、尽くせりの贅沢なブルベを体験できて本当によかった。長年ブルベを走って来たオランダの先輩達の熱い思い、素晴らしい企画力に感動する毎日であった。

Thank you to the members of
EURAUDAX RANDONNÉE NEDERLAND
<https://merselo2verona.wordpress.com/>

